

明るく元気の出る町

平成8年3月1日発行・毎月1日 編集・発行 / 秋田県東由利町役場企画課

広報

# ひがしゆり

HIGASHIYURI

 東由利町

1996

3

NO. 492



町イメージキャラクター  
「モウ太くん」

やったー、当たった！  
大平雪まつり、福引きコーナーでの1コマ





## ポイント① 全体として 管理が政府から民間へ

食糧管理法と新食糧法の基本的な違いは、生産者の米全量政府への売り渡し義務をなくし、生産調整実施者にのみ政府売り渡し権利を与えたことと、米流通の主体を民間流通に委ね、加えて従来のヤミ米を計画外流通米として制度的に認めたということです。

政府が管理する部分を大幅に縮小し、米全体の数量管理と需給調整の責任を生産者と生産者団体に負わせるようにしたことが大きな特徴です。

## ポイント② 生産調整

### 「とも補償」活用が目玉

減反などのいわゆる生産調整は、農家の自主性が尊重されているものの、目標面積と生産者の意向とのギャップは、地域内、地域間での調整が必要とされています。

秋田県JAグループでは、

平成八年度から三か年にわたって行われる「新生産調整推進対策」の目玉に地域の創意工夫による生産調整の実施と「とも補償事業の活用」を掲げています。特に、とも補償事業では、生産調整の実施による経済的不利益を地域全体で補償しあう全員参加型を基本に、参加農家のメリットが確保されるようにしています。

実際には、供給過剰となれば米価の低下は必至であり、生産調整を実施するための助成金制度の充実やJAを中心にした減反の指導、確認が強く要求されるほか、生産者間の不公平感を無くすための施策が大きな課題となっています。

## ポイント③ 流通

### 販売は原則自由

米の流通は大幅に規制が緩和され、生産者の販売は原則

自由となりました。

これまでの政府米、自主流通米にあたる計画流通米と超過米、特別栽培米などにあたる計画外流通米の二本だてとなります。具体的には、計画流通米は、複数の出荷取扱業者（これまでの集荷業者）へ出荷でき、計画外流通米は、食糧事務所に数量を届け出れば自由に販売できることになりました。



▲米の流通は大幅に規制緩和  
(写真・昨年の米出荷の様子)

一方、計画出荷米を農家から買い、販売業者へ売る出荷取扱業者や計画出荷米の販売業者は、許可制から登録制となりました。出荷取扱業者の資格として「十人以上の生産者と出荷契約を締結し、二十トン以上を計画流通米として出荷」と定め、JAのほか商社などの参入も認められるようになりました。また、販売業のうち小売業は、売り場が

戦中、戦後五十三年間続いた食糧管理法が昨年十月末で廃止され、十一月一日から「新食糧法」（主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律）が施行されました。

新食糧法の下では、生産、流通、販売がこれまでの「管理」から「自由」へと改められました。需要と供給によって米価が決められるなど農家個々の生産調整（減反など）努力が米価に影響してくることから米を取り巻く情勢が大きく変化するものと考えられます。制度の内容やポイント、食糧事務所、県、農家の意見を取材しました。

# 新食糧法ってナニ？



# 法 糧 食 新 ポート リ

## 「管理」から「自由」へ

価格安定は生産調整がポイント



ある登録された卸等から米を仕入れる—などの要件を満たし、登録されれば誰でもが自由に販売できるようになり、流通ルートが多様化することから消費者にとっては選択の幅が広がったと言えます。

### ポイント④ 価格

#### 市場原理で決定

食糧管理法では、政府米買入価格（生産者米価）が価格体系の中核だったのに対して、新食糧法では、基本的に市場原理で価格が決まります。

政府米価格は、自主流通米の価格動向や米の需給動向を見ながら決められ、毎年、種類、等級などにより定めることとしその決定に当たっては、従来通り米価審議会の意見を聴くことになっています。

自主流通米価格は「自主流通米価格形成センター」の入札取引で決まります。同センターの入札には、一定条件を満たせば、各地の単位JAなど第一種出荷業者も売り渡し役として、登録小売業者も買い受け役として参加できるようになりました。

政府米、自主流通米とも需

給動向を反映した市場原理で価格が決定されるため、生産調整や備蓄運営等需給調整が重要な課題となって来ます。

### ポイント⑤ 備蓄

#### 150万トン確保

新食糧法では、米の需給の調整と価格の安定を図るため、備蓄制度を明確化し、安定的な供給ができるようになっていきます。

備蓄量は、年間百五十万トンを基本に、豊凶による需給変動にも機動的に対応できるようプラス、マイナス五十万トンの幅を持たせています。備蓄米は、一年間保管後、主食用、加工用、援助用等に売却されます。この備蓄に係る経費は、基本的には国が責任を持って行い、また自主流通法人が実施する民間備蓄に対しては、助成を行うことになっています。

### ポイント⑥ 輸入

#### 平成12年には76万トン

新食糧法では、米の輸出入は国家管理で行い、輸入数量は毎年基本計画に定めること

が明記されています。

昨年四月一日以降、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意に基づき、ミニマム・アクセスの米輸入が実施されました。ミニマム・アクセス米の輸入量は、平成七年度が精米ベースで国内消費量の四割に当たる三十八万トン。その後、国内の豊凶に拘わらず輸入量は年々増加し、平成十二年には七十六万トンになります。

### ポイント⑦ これらを踏まえて

#### おいしい米をつくらう

全国的に見た米の供給量は、極端な冷害を除けば、十分満たされる状況にあり、その一方で、消費者はおいしい米への志向が強まり、産地での良質米生産、販売が活発になるなど産地間競争が激しくなっています。

新食糧法では、米流通の主体が自主流通米となり、実勢価格を反映した米価決定となることから、きちんとした生産調整による価格形成はもろんのこと、おいしい米づくりへのこだわりが一層重要なカギをにぎるとされています。



生産調整がうまくいかないと

米価は安定しない。みんなで

力を合わせて頑張ろう。

## JA行政でも強力に指導を

町認定農業者協議会 畑山吉基会長



新食糧法

は、農家の自主性が尊重されていると言っている割には、かなりの「しば

り」を感じます。

生産調整をしないと米価に響くと理屈ではわかっていて

ものの、将

来的に規模拡大を考えている私たちにかなり厳しい状況。「認定農業者として地域を引っ張ってほしい」と町では言っているが、それならば目先だけの施策でなく、先を見

た計画性のある施策をしてほしいと思います。

JA東由利や行政な

どの強力な指導力で個々の農家を引っ張ってほしいと思います。

## 県でも応援します 農家が生き残るために

新食糧法の生産調整では、

県を「農業団体や農家の後押し」と位置づけています。県ではJAと市町村が一体となって農業振興に取り組むための



推進費や生産調整に協力した農家への助成な

どを考えています。

戦略作物等の生産拡大を転作の面から促進するため、野菜の団地化等への支援等も検討しています。

また、生産調整を地域で円滑に実施するため、地域の合意に基づき、経済的不利益を生産者相互に補償しあう」とも補償」事業には国から補助

県由利農林事務所  
菅原まり子課長補佐

金として、転作面積十ア当たりに一万二千元か、二万円が交付される予定です。「みんなが生き残るには、みんなで助け合おう」という互助の考えで全町一丸となって対処してほしいと思います。新食糧法では、各分野にわたり規制が緩和され、自主性が尊重されています。米の値段が年々下がる傾向にあり、全国的には米あまり現象となっている現在、国では、備蓄による食糧の確保は考えているものの米

価下落への歯止め策は鮮明に打ち出せないのが現実。さらに、米の需要が伸びないうえに外米の輸入が義務づけられるなど厳しい状況となっています。東由利町のスローガンでもある「あきたこまちと由利牛の里」を確固たるものに、農家が生き残るためには「きちんとした生産調整が米価の安定につながる」ということを農家自身の問題としてしっかり考えるべきではないかと思っています。

秋田食糧事務所本荘支所では

## 備蓄米は国産で



▲政府米を管理する食糧事務所

新食糧

法での政府の役割は、大きく分けて

政府米管理と備蓄

の二つ。食糧管理法と比較して政府の役割が大きく縮小されました。

「政府が行う備蓄は、米の不足が生じた場合を考えたもので、すべて国産米で対応する考え。政府米は生産者との

契約になることから買い方は依然不透明」と話すのは、農林水産省秋田食糧事務所本荘支所業務課の真坂久蔵課長。備蓄用として確保される百五十万トンは、試算によると全国消費者が三か月半利用できる量に相当し、端境期での利用が想定されています。

さらに、真坂課長は「生産調整がうまくいかないと米価が下がり、自主流通米が政府米と同じ価格になることがあり得る。新食糧法の行方は生産調整にかかっている」と言っても過言ではない」と農家個々の努力が大きなポイントになることを強調しています。





## 「とも補償」には 全農家の参加を

町では二月十五日、新食糧法の下での生産調整を円滑に進めるため、町、議会、農業委員会、JA東由利、由利農業共済組合の代表者などで組織される「町新生産調整推進対策推進会議」



計画的な生産調整で米価の安定を  
(写真・高戸屋地区での田植)

を開催しました。また、これに先立ち二月七日には、町、JA東由利、農業士、認定農業者協議会役員による幹事会を開催、「とも補償事業」を中心にした生産調整の方法を協議しました。

事務担当者として

生産調整のリーダーとも言うべき認定農業者らが出席した幹事会では、①転作面積の配分は平成七年度の水田面積を基に全農家に一律配分する②生産調整の方法はこれまで

どおり「とも補償事業」を継続して行い、十アール未満の飯米農家を除く全農家に参加を呼びかけるなどを確認しました。なお、生産調整の具体的な内容は、二月二十六日の協同班長会議で説明されました。

年度の面積  
8年作  
49ヘクタール増

本町分の平成八年度生産調整対象水田面積（転作面積）ガイドラインは、二百四十五畝、昨年度に比較して実質四十九畝増えることになりました。

国では、新食糧法施行によ

り杉などの樹木による転作（本町分は十一畝）はすでに定着しているものとして転作面積には含めるもののガイドラインからは除外。このため町では、平成八年度の実質転作面積として二百四十五畝と十一畝をプラスした二百五十六畝を基礎とし、二十二・三の転作率で配分することにしたものです。

なお、平成八年度の新加工用米（旧他用途利用米）は、八万六千二百五十袋（二千八百七十五袋）が配分されており、七年度と比較して、二万六千十袋（八百六十七袋）減少しています。

### 計画外出荷米は届け出を

食糧事務所では、特別栽培米などの「計画外出荷米」の届出を呼びかけています。

新食糧法では、政府米、自主流通米など出荷業者を経由して消費者に届けられる米を計画出荷米、生産者から消費者に直接届けられる米を計画外出荷米と位置づけています。

計画外出荷米を出荷しようとする場合は、所定の用紙に①生産年②種類③数量④売渡予定期日一を食糧事務所に届け出なければなりません。

食糧事務所本荘支所では「米穀全体の需給調整を図るためのものであり、届け出るだけでOK。簡単な手続きなので気軽に相談してほしい」と話しています。

詳しくは秋田食糧事務所本荘支所（☎22-0991）ま

### 米穀販売業の説明会

#### 7日に横手市で開催

県では、新食糧法施行による米穀販売業登録の説明会を、三月七日午後一時三十分から横手市の横手・平鹿広域交流センターで開催します。

新食糧法では、米穀の販売が許可制から登録制となったのに加えて、精米の表示方法



が改正されました。新しい表示制度では、生産地、品種、生産年などが表示され、検査に合格すると、認定マークが表示されます。

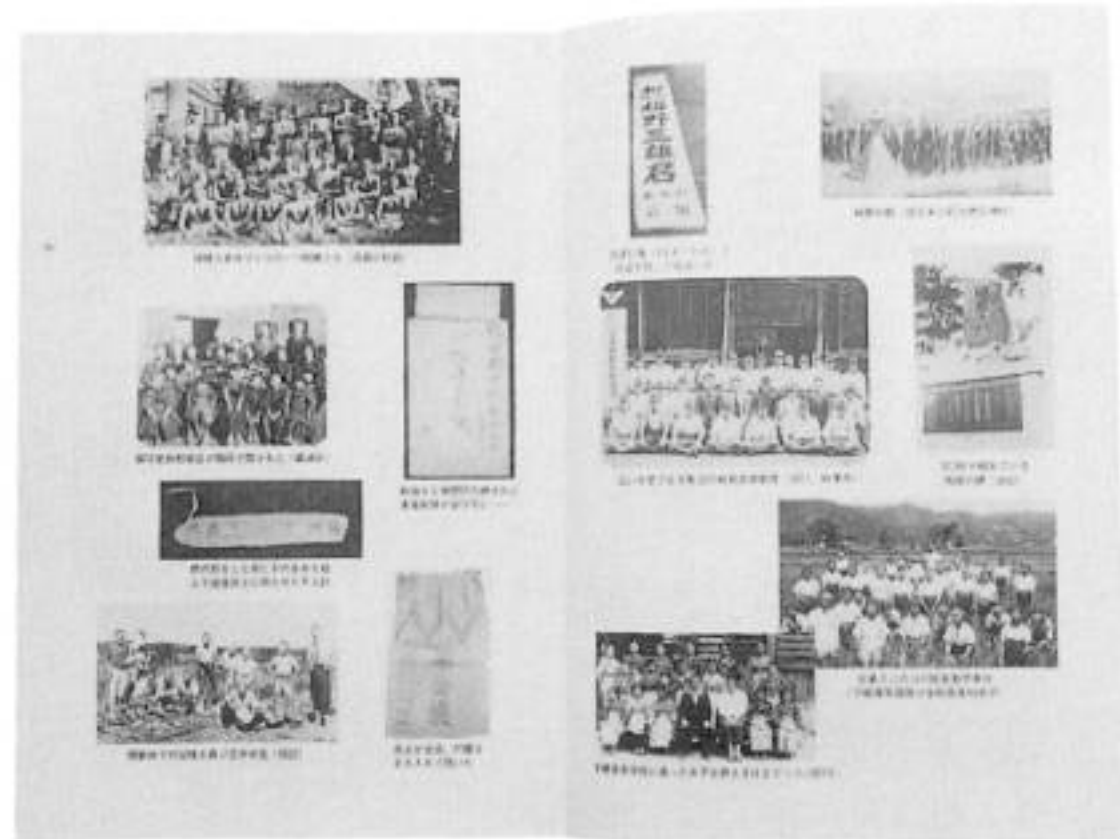
新食糧法による米穀販売業の申請は、四月一日から三十日まで県（本町の場合は由利農林事務所）で受付し、六月一日付で登録される予定です。



終戦50年寄稿文集

わたしと終戦

▲町内全戸に配布された文集



▲巻頭には当時の写真がたくさん掲載されている

## 終戦50年 寄稿文集

# 「わたしと終戦」刊行

戦後五十年を記念して町が昨年六月から広報等で原稿を募集していた終戦五十年寄稿文集「わたしと終戦」がこのほど完成しました。

これは、①日本が世界中を相手に戦争し、そして敗れたことを契機に大きく様変わりしたこと②あの第二次世界大戦という事実が遠い昔の出来事として年々記憶が風化して

いること③物質的な豊かさを享受している現代は、どのようになされてきたかーなど、町内の方や町出身の方など

から、当時の暮らしをふり返ってもらい次の世代に語り継ぐと企画したものです。

文集は、B5版の大きさを、約百六十頁。町内外百三十六人の方たちから寄せられた原稿と当時の写真、年表から構成されており、昭和二十年八月十五日前後の出来事が切々と訴えられています。

戦後五十年の節目となった昨年は、全国的に戦争の悲しさ、冷酷さが訴えられ、平和への誓いを新たにしました。

本町でも恒例の「戦没者追悼式」に引き続き、玉米、下郷両遺族会主催の「戦後五十年を偲ぶ会」が行われるなど戦後五十年の歴史の重みをかみしめました。

なお、文集は町内各家庭に配布されていますが、乱丁、落丁本の場合やお問い合わせは、役場企画課（☎69-2113）まで。

終戦50年寄稿文集「わたしと終戦」8頁上段中、「誤・須郷田」を「正・須郷」に訂正してください。

一月一四日、雪。石原莞爾中将来荘（注・本荘町公会堂で）講演あり。日本海軍の装備は一流であるが、陸軍の機甲は貧弱である。日本の高射砲はアメリカの爆撃機の高度にとどかない。人口五万以上の都市は爆撃を受け焦土となると警告す。

一月二二日、曇。壮丁検査（於本荘町）通常は夏期に執行するのであるが本年は繰上げとなる。尚年齢も繰下げ満一九歳も対象となる、兵員不足のためならん。検査執行官は本連隊区司令官の職であるが、本年は県職員で地方事務所長が代理す。将校も不足のためならん。

一月三〇日、供出米完達す。但し庭先供出も含めてである。多量の屑米、若干の種籾、大豆も有る。庭先供出とは供出百％という要請（強制）に合わせるため、現物は農業倉庫に搬入せず庭先で数量を確認して供出と見做す苦肉の策である。

三月一日、硫黄島日本軍全滅。

三月九日、B29東京上空襲。

四月一日、アメリカ軍沖繩に上陸。

四月二二日、アメリカ大統領ルーズベルト死亡。

四月三〇日、ヒットラー自決。

五月七日、独逸降伏。

五月一五日、晴。松根油施設海軍建設隊来村、即刻作業着手。半島出身の兵一人あり。（松根油はガソリンの代用品）

五月一九日、施設は完成す。

五月二二日、松根油採掘開始。

五月二五日、海軍建設隊送別会。

五月二七日、晴。大東亜戦争戦勝祈願祭、大物忌神社、住吉神社。

六月一三日、晴。小学児童挺身隊結成。

六月一四日、晴。軍用保護馬検定。

六月二四日、小雨。国民義勇隊由利連（台山）

六月二三日、政府は国民義勇兵役法を公布す。

七月一日、晴。泡ノ湖溜池築造に甲種食糧増産隊が應援に来村、地元に分宿す。

七月一日、晴。夕方より雨。簡閑峠、会場老方国民学校。主食（米）配給一割減となる。成人一人一日二合一匁。

## 昭和20年銃後日記(抜粋)

小松榮男氏・特別寄稿

七月一三日、小雨。全村の田植え労力不足のため漸く終る。休暇をとり瀬見温泉に行く。傷痍軍人で一杯。一室を得て宿泊するも夜中東京より罹災者来て同室となる。

七月一四日、晴。鳴子に移る。ここは疎開児童とその父兄、彼等より東京空襲の状況を聞く。突然ガラスに衝撃派有り連続す。ミニッツ艦隊が釜石製鉄所艦砲攻撃と判る。空母よりグラマン各地を攻撃す。仙台の電話中継所炎上のため役場に電話通せず。夜松島基地よりの海軍兵と同室、松島も攻撃を受けたる由、グラマンの薬莖を見せられる。

七月一五日、小雨。疎開児童、その親と同室す。

七月一六日、曇。帰路。横手はグラマンの攻撃を受けて騒然としている。八塩山を掠めてグラマン飛来した由。

七月二五日、晴。海軍志願（少年兵）二五名應募二〇名合格。

七月二九日、晴。義勇戦隊隊の編成。

七月三一日、晴。右全

八月六日、広島原爆投下。

八月九日、ソ連参戦、長崎原爆投下。

八月一四日、雨。明日正午陛下よりの放送あると予告。夜土崎B29の空襲を受ける。夜中爆音しきりなり。

八月一五日、晴。地方事務所米の還元配給の交渉。正午、地方事務所ラヂオで陛下の放送を聞く。ポツダム宣言の受諾である。日本中から一切の物音が消え去ったような瞬間であった。晴れた暑い日。

九月三日、雨。大東亜戦争終戦報知祭。大物忌神社、神明神社にて。

九月七日、半晴。玉米村在郷軍人分会解散式。分会旗と軍人勳章を焼く、住吉国民学校校庭にて。祝宴は濁酒とホッケの饗宴。

九月二〇日、夕方より雨。神奈川県食糧営団より米受配要請に来村。食糧配給機能混乱したため消費地では在庫地に直接要請する状況となる。

一〇月一五日、雨後曇。横手に進駐せるアメリカ兵来村し尋問を受ける。中尉、少尉、軍曹計三名。

大東亜戦争にて玉米村出身の戦死者一〇名。



町

長

町 長 阿 部 幸 悦

日

記

## もうひと踏ん張り

子牛の市場上場一千頭祭りを行ったのが平成四年と六年。それをピークにわが町の和牛頭数と飼育農家数は減る一方であります。その原因として、牛肉の自由化などにより、外国から安い肉が入ってきて国産牛肉の値段が下がってしまったこと。就業構造の変化で若い人たちが牛に手をかけられなくなり手放してしまった。などが考えられます。町では、

畜産基盤の整備のため、出羽丘陵開発で二百十ヘクタールの草地を造成。ジャージー時代に開発した草地も含めるとかなりの面積となります。しかし、このまま和牛頭数が減少すれば、これまでの先輩たちの難儀を無にしてしまうことになる。この対策として、まずより市場性の高い種牛を選定しなければなりません。県有牛の使用とともに、盛岡の家畜改良事業団にお願いし、平準化事業にも入れてもらいました。県の皆さんにもご理解を戴き、

由利の育種組合と競合しない牛についてはこの種牛を使わせてもらいました。北国7の8、紋次郎、高栄などであります。また、飼育農家の高齢化対策として和牛ヘルパー制度も作りました。このような努力もすぐには実を結ばず、価格も二十万円台で推移しましたが、昨年十月の湯沢市場との統合から状況が少々変わって来ました。種牛の増加により購買者の選択肢が増え、購買人が多くなったことや全国的な飼育頭数の減少による影響などもあり、

結果として価格が上昇してきました。まずは長い子牛価格の低迷期が終わったことになればと強く期待しているところです。最近、県では秋宮号という大内町産の種牛の開発に成功。脂肪交雑が2・6という全国的にもトップレベルの種牛ができ、大きく期待されています。わが町は全県一の黒毛和牛飼育頭数を誇る畜産の町です。子牛価格には必ず波があり、上昇の波がいま来たと感じます。もうひと踏ん張りです。

## 2月子牛市場

# 1頭平均38万2千円

去勢牛は40万台確保

品薄の影響などで価格の安定が見られた子牛市場



今年最初の子牛市場が二月八、九日に本荘市の広域由利家畜市場で行われました。本町からは九日に九九頭の子牛が上場（内八六頭成立）され一頭当たりの平均価格が三八一、九〇二円、十二月に比較して九、七九二円下がったものの、昨年の初競りと比較すると九万円上がっており、まずまずの初セリとなりました。この内去勢牛は一頭平均四〇二、三〇六円、雌牛は三五二、一七二円となり、十二月と比較して去勢牛が一三、六七〇円下がったものの、雌牛では五、四四三円上がりました。

た。なお、昨年同期と比較すると去勢牛で八八、〇〇〇円、雌牛で一〇三、〇〇〇円それぞれ上昇しています。価格の動向について由利畜産農業協同組合連合会では「牛肉の輸入自由化の影響が子牛価格に反映し、不透明感が続いた昨年に比べ、今年は、全国的な素牛生産頭数の減少に加え、年末年始の需要増による品薄が拍車をかけた」と比較的高値で推移している現状を分析。さらに市場集約の影響について「当初の期待どおり、購買者の選択肢が増え価格の安定が見られた」と話しています。

## 転居したら 車の変更手続きも

由利県税事務所では、自動車税の納税通知書の発送を円滑にするため、住所を変更した場合、秋田陸運支局へも届け出るよう呼びかけています。陸運支局への届け出の場合は①住民票②車庫証明書③自動車検査証④印鑑⑤が必要。詳しくは、秋田陸運支局（☎0188-6345815）か由利県税事務所（231-4105）まで。





## 60-64歳には部分年金

# 老齢厚生年金が制度改革

昨年の年金制度改革により、会社勤めの人などがもらえる老齢厚生年金の支給年齢が平

成二十五年までかかって六十歳から六十五歳へ、この間、六十一歳までは部分年

給開始年齢が順次繰り下げられ、この間、六十一歳から六十五歳までは、老齢厚生年金のうち、報酬に応じて保険料を納付した分を基礎とした部分年金を、それ以降は、六十五歳からの支給となります。

金が増えることになりました。今回の改正は、老齢厚生年金部分で、男子の場合、昭和十六年四月二日以降に、女子の場合、昭和二十一年四月二日以降に生まれた人が対象となります。具体的には、別表の生年月日に応じて支

金が増えることになりました。今回の改正は、老齢厚生年金部分で、男子の場合、昭和十六年四月二日以降に、女子の場合、昭和二十一年四月二日以降に生まれた人が対象となります。具体的には、別表の生年月日に応じて支

### ・現行

|                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| 特別支給の老齢厚生年金<br>(定額部分+報酬比例部分) | 老齢厚生年金<br>老齢基礎年金 |
|------------------------------|------------------|

60歳 65歳

### ・中間的な姿

|                              |                  |
|------------------------------|------------------|
| 特別支給の老齢厚生年金<br>(定額部分+報酬比例部分) | 老齢厚生年金<br>老齢基礎年金 |
|------------------------------|------------------|

報酬比例部分相当の老齢厚生年金

60歳 61歳 65歳

### ・完成時の姿

|                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 報酬比例部分相当の老齢厚生年金 | 老齢厚生年金<br>老齢基礎年金 |
|-----------------|------------------|

60歳 65歳

### 〈男子の場合〉

| 生年月日                | 支給開始年齢 |
|---------------------|--------|
| 昭和16年4月1日以前         | 60歳    |
| 昭和16年4月2日～昭和18年4月1日 | 61歳    |
| 昭和18年4月2日～昭和20年4月1日 | 62歳    |
| 昭和20年4月2日～昭和22年4月1日 | 63歳    |
| 昭和22年4月2日～昭和24年4月1日 | 64歳    |
| 昭和24年4月2日以後         | 65歳    |

### 〈女子の場合〉

| 生年月日                | 支給開始年齢 |
|---------------------|--------|
| 昭和21年4月1日以前         | 60歳    |
| 昭和21年4月2日～昭和23年4月1日 | 61歳    |
| 昭和23年4月2日～昭和25年4月1日 | 62歳    |
| 昭和25年4月2日～昭和27年4月1日 | 63歳    |
| 昭和27年4月2日～昭和29年4月1日 | 64歳    |
| 昭和29年4月2日以後         | 65歳    |

## ♥愛の献血

ありがとうございます。

1月23日(敬称略)

四〇〇cc

遠藤 克幸 小松 貢治 高橋 孝紀  
小松 雄一 佐々木信幸 高沢 稔  
柴田 和尋 遠藤 哲也 小松 信記  
小松 和美 畠山 忠志 工藤 良  
佐藤 涉 高橋 和幸 阿曾 文彦  
小松 健 小松 正二 畑山 豊隆  
畠山 伸 石井 政志 横山 昌喜  
伊東 健市 小野 広喜 猪股 友子  
遠藤由美子 小松五緒子 守屋富士子

長谷山広美 畑山千江子 高橋由喜江  
畠山 楸 小松 正義 佐藤 一裕  
鈴木賢一郎 高橋 洋  
二〇〇cc

三浦 雅弘 小松 修一 工藤 恵  
渡辺 サキ 阿部由起子 杉野 文子  
佐藤枝美子 遠藤 武 大庭 和子  
大日向静子 大日向睦子 佐藤富美子  
畑山 純子 小野 博子 長谷山友子  
小野 一成 小野 一 横山 立治  
鈴木 政也 小松由貴雄 渡辺 弘樹  
渡辺ヒロ子 小野 里美 小野 和美  
長谷山留美 小玉 雅之 小野 吉則  
高橋 正枝 小松 嘉幸

もうすぐ70歳のみなさんへ

誕生日の老人保健になります

国民健康保険の被保険者になり、通院の際は、この受給者証、健康手帳、医療保険の被保険者証(俗に言う保険証)を持参し診療を受けることになります。

七十歳(身体障害者手帳一・三級の方は六十五歳)の誕生日を迎える翌月(二日生まれの方はその月)から老人保健の対象となります。また、老人保健の対象となっても国民健康保険の被保険者になり、通院の際は、この受給者証、健康手帳、医療保険の被保険者証(俗に言う保険証)を持参し診療を受けることになります。

が変わるのは、一般の国民健康保険と同じ給付が受けられます。つまり、国民健康保険税も今まで通り納めなければならないということになります。





▲お米入りの「黄桜アイス」



▲社員のアイデアで登場した手づくりの「ママドーナツ」



店内にはお土産品がズラリ



“気軽に”  
“手軽に”が  
モットー

## 展示コーナーを ご利用ください



▲2月には刺しゅうパネルが飾られた展示コーナー

株式会社黄桜の里では、「湯楽里」と「やしお」の渡り廊下に設置されている展示コーナーの作品を募集しています。利用料は無料。同社では、サークルなどの発表の場にご利用してもらおうとパネル三枚を用意しており、これまで、ちぎり絵、習字、写真などを展示してきました。

詳しくは株式会社黄桜の里総務課（☎69-2611）まで。

## ドーナツやアイスが人気

「道の駅」東由利休憩所横にあるおやつ駅。軽食中心の食事が楽しめるほか、お土産品などが販売されており、昨年十一月のオープンから約一万人が利用しています。

食事は、山菜そばやうどん、焼きそば、お好み焼きなどのいわゆるファーストフード類をはじめ、手作りのドーナツ、土、日限定の玉串コンニャクなど社員のアイデアによる独自のメニューがあります。長距離の運転手さんやお食事処「やしお」が満室のときのちょっとした休憩などに利用されることが多く、誰でも簡単に利用できる気軽さが人気を集めています。

特に手作りのママドーナツは、きなこ、くるみ、レーズン、ココアの四種類があり、甘さをおさえたまろやかな味が好評。一個五十円と価格も手頃なこと、会社勤めの人や部活帰りの中学校、高校の生徒たちから利用されています。

また、お米入りの黄桜アイスやソフトクリームは、オープン時の天気の良い日には行列ができるほどの人気。最近では、雪の日が多く、行列ができるほどではないものの、お風呂上がりのお客さんがわざわざ買い求めることもしばしば。

ばで、客層も子供からお年寄りまで幅広いものがあります。

株式会社黄桜の里では、道の駅休憩所などを利用する人の利便を第一に考え、「手軽に、気軽に」をモットーにおやつ駅を運営する一方、「社員のアイデアをふんだんに取り入れ、独自のメニューがないか目下検討中。雪解けころまでには、メニューを増やしてお客さんの要望に答えるようにしたい。また、春から秋にかけては、外での食事でも楽しめるようテーブルや椅子などの設置も検討している」と話しています。

黄桜温泉  
湯楽里



株式会社  
黄桜の里

お食事処  
やしお



## 学校備品など修繕

町建設技能組合

町建設技能組合（阿部悟組合長）が二月九日、町内の小中学校や寄宿舎などの補修や備品の修繕をボランティアで行いました。

当日は、組合員約二十人が参加。JA東由利本所前で、阿部組合長が「みんなで協力して頑張ってほしい」と激励しました。

その後、各学校の要望に応じて、作業分担が決められ出発。一番要望の多かった東由利中では、戸車や階段の滑り止めの修理をはじめ、ロッカーや壁の修理を行いました。

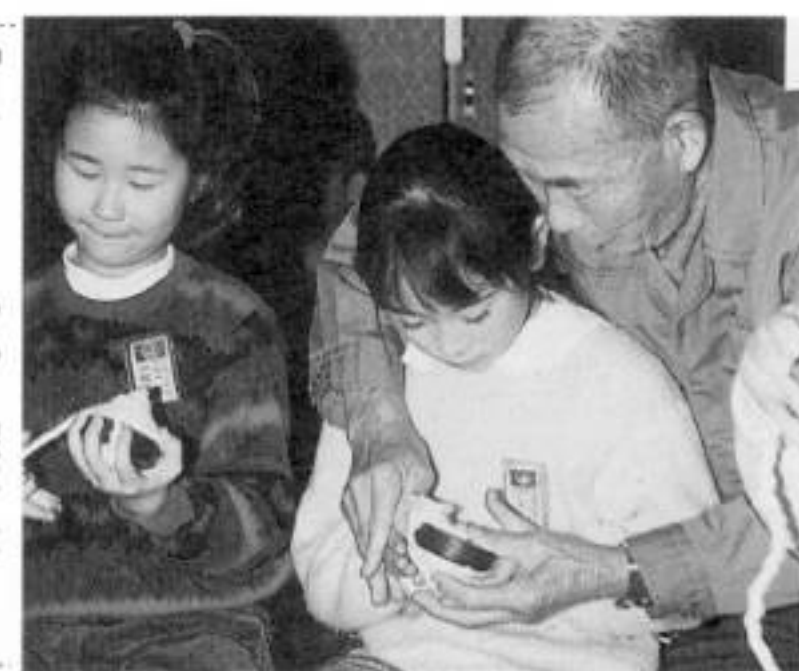
町建設技能組合では「今年は、多くの組合員の参加者で幅広く作業を行うことができた。役に立ててうれしい」と話しています。



▲戸車の修理をする組合員

## 昔の遊びで交流

高齢者と子供の集い



「コマは、こうやって遊ぶんだよ」

昔の遊びをとおしてお年寄りといと子供の交流を深めようと

二月十三日、高齢者と子供の集いが有鄰館で行われました。

集いは、ことぶき大学の一年環として昭和五十五年から毎年行われているもので、町内の小学三年生五十七人とく大學生約百人が参加。最初に蔵の石渡力造さんが手作りの紙芝居を披露。引き続き、けん玉、お手玉、ビー玉、めんこ、コマが準備され、子供たちは五班に別れて、それぞれの遊びを楽しみました。

会場内は、子供たちに遊び方を教えたり、昔を思い出しながら遊ぶお年寄りの姿が見られ、和やかな雰囲気につつまれていました。

## 東光苑が初優勝

'96バレーボールリーグ

'96バレーボールリーグ決勝トーナメントが二月十一日、健康増進センターで行われ、東光苑が初優勝を飾りました。

同大会は、冬季間の運動不足解消と若者の交流をねらいに毎年行われているもので、今年は、一月十日から健康増進センターで七チームによるリーグ戦が行われ、当日の決勝トーナメントには上戸四チームが進出しました。

決勝戦は、リーグ戦一位の東光苑と昨年の覇者ポパイスポーツクラブを下したウイングスとの対決。一進一退の好ゲームが展開され、東光苑がウイングスを振り切り、念願の初優勝に輝いたものです。



▲白熱した試合が展開されたバレーリーグ

## 3人が東北大会へ

ヤマハカップスキー

ヤマハカップ東北スキー大会に小松朋未、小松るみ子さん（以上高瀬小）、佐藤大くん（八塩小）の三人が県代表として出場します。

東北大会は三月十日、東成瀬村のジュネス栗駒スキー場で行われます。

## 二人の高橋さん 統計調査で表彰



高橋慶助さん



高橋富男さん

平成七年度秋田県統計功勞者表彰式が一月三十一日県庁で行われ、本町の高橋慶助氏（館倉新田）が農林水産大臣表彰を、高橋富男氏（館西）が県知事表彰を受賞しました。農林水産大臣表彰は、一九

九五年農業センサスを含め、過去二回以上農林業センサスに従事し、その成績が極めて優秀と認められた方に贈られるものです。高橋慶助氏は、農林業センサス七回のほか、国勢調査五回、その他統計調査に十六回従事し、その成績が優秀で、功績が特に顕著と認められたものです。

知事表彰は、過去三年以内に統計調査に従事し、通算五年以上統計調査に従事された方に贈られるものです。高橋富男氏は、昭和五十九年秋田県農業基本調査に従事して以来六回の調査の功績が認められ、表彰されたものです。





## 冬まつりつこに200人

蔵分館が企画運営

蔵分館（伊東一夫分館長）企画運営の手づくりイベント、「蔵むらの冬まつりつこ」が二月十一日、大蔵館を主会場に行われました。

冬まつりつこは、大蔵館の完成を記念して十九年前に始められたもので、地域の和と親子の触れ合いを深めようと、毎年行われているものです。

当日は、親子や家族連れなど約二百人が参加。凧あげや餅つき大会をはじめ、紙芝居や映画、清酒の試飲コーナーなどが設けられたほか、ポッポコーン、わたあめ、焼き鳥などの出店も準備されました。

蔵分館では「二十回記念となる来年は、地域の方々と協力しながら、なお一層盛大なものにしたい」と意欲を見せられています。



▲もちつきなどが行われた冬まつりつこ

## 雪上で親子が触れ合う

八塩ウインターフェスタ



▲子供たちの歓声が響いたフェスティバル

雪上でのゲームを通して親子の触れ合いを深めようと八塩小のウインターフェスティバルが二月三日、同小グラウンドで行われました。

この催しは、同小PTA（佐藤知泰会長）が中心となり行われているもので、今年は、児童とその父兄など約二百人が参加しました。

四人一組でソリをリレーするジャンボソリリレーや五分以内で作った山の高さを競う雪山づくりなど、雪を利用した五種目のゲームが行われました。学年対抗ジャンボソリリレーは、子供をソリに乗せて、父兄が引っ張るもので、中には、子供を置き去りにしたままソリだけを引っ張るチームも見られ、会場内は終始歓声が響き渡っていました。

町スポーツ祭

## 新町自治会が総合初優勝

合併四十年、町制施行二十周年を記念して昨年創設された「町スポーツ祭」は、二月十八日に健康増進センターで綱引きが行われた結果、新町自治会が総合優勝を飾りました。



▲スポーツ祭総合優勝の新町自治会

生涯スポーツの気運を盛り上げ、また、地域、世代間の交流をねらいとして行われたスポーツ祭は、年間五種目の総得点で順位が決定されます。

今年、トラック&フィールド（従来の町民運動会）が雨天のため中止となり、ゲートボール、ラージボール卓球、グラウンドゴルフ、綱引きの四種目で熱戦が繰

り広げられました。三種目終了時にトップに立った新町自治会は、綱引きで男子が優勝を飾り、総合優勝に花を添えました。

## 3部門、23チームで熱戦

つなひき

スポーツ祭の最終種目となった綱引きには、男子の部十二、女子の部六、子供の部五の二十三チーム、九自治会が参加し、競技が行われました。

「ステディ（用意）、ブル（はじめ）」の掛け声がかかる綱がピンと張られ、周囲からの声援が飛び交う中、熱戦が繰り広げられました。

成績は次のとおりです。

- 《男子の部》①新町A②蔵A③蔵新田Z《女子の部》①蔵スーパードレイス②小倉③地下ノ沢



▲熱戦が展開された綱引き  
《小学生の部》①蔵スーパードレイス②ジュニア③石高③新町

## 黄桜まつりは5月11、12日

観光協会理事会で決定

町観光協会は二月二十日の理事会で、第十二回黄桜まつりを五月十一、十二日の両日に行うことにし、観桜会を三日から十九日までの十七日間としました。

県内最終の観桜会としてすっかり定着している黄桜まつりは、昨年度の観桜会で三万二千人の入込客を記録。年々盛り上がりを見せています。

町観光協会では「四月早々にイベント内容を決定し、県内各地にPRしたい」としています。

# HIGASHIYURI 東由利の話題 TOPICS



# 町の宝もの

47

## 小松家の高野槇(宇戸坂)

写真は小松榮男氏宅地内にある高野槇で、目通り周囲が一六〇センチあります。数年前落雷防止から上部数メートルを切っていますが、現在の高さは約十二メートル、樹齢は明治の中頃に植えられたので百年ほどのようです。

この木は真木、槇とも書き、すぐれた木の意で「わが御魂を船上に坐ませて真木の灰を……」と古事記にも出ています。



本州中部以西の山地に自生する常緑針葉高木で、近年庭木として珍重され町内にも散見されます。木材は耐水性が強く桶などを作り、樹皮は「まきはだ」と言って船などの隙間をうめて、水漏れを防ぐのに使われ貴重でした。なお、田代の佐藤康一郎氏の宅地内にある高野槇も大きい木です。

(文・畑山昭二)

## 業り 林だ 森林整備計画の推進

森林・林業をめぐる状況は、木材価格の低迷による林業収益の低下や林業労働力の減少などから森林の保育や木材生産活動が停滞しています。このようなかで森林整備を進めていくには、間伐等保育の推進方策の確立、森林施業の共同化、森林組合事業の強化、林業担い手の育成、林業機械化の促進、作業路網の整備、林産物の流通加工体制の確立などの課題に取り組まなければなりません。

ばなりません。

このため、町では平成八年から十年間にわたる森林整備計画の樹立作業を進めています。内容は前述の課題に対する計画となっていて、森林施業共同化重点地区を設定して、それを核に補助事業を導入しながら推進することになっています。また、昨秋に杉森地内に設置した優良保育管理展示林を間伐、複層林、作業道等総合的な森林施業の参考林として活用を進めることにしています。

(町林業懇話会長 佐藤恒悦)

## 幼少時を振り返り、今思うこと

幼い頃、雑草屋に育った私は、決まっ、て、両方の小さなポケットに、はみ出すくらいの駄菓子忍ばせ、近所の子供たちの待つ所へと遊びに出かけたものでした。いつでも甘いお菓子が手の届くところにある環境でしたから、歯痛のため、夜通し泣いた苦い思い出もあります。我慢がならず、母に歯医者に連れて行ってもらったまでは良かったのですが、あまりの虫歯の多さと歯の汚れを見た歯医者さんは、子供の私ではなく母を叱ったものでした。当の本人はニコニコ顔で「ケロッ」としていたということでしたから、大切な歯ということに対してどんなに無知だったことでしょうか。

もう少し親も子も関心を

今回の三歳児健診では、

十八人が受診し、虫歯の無かつた子供は五人。十数本も虫歯のある子供がいるなど、二歳から三歳にかけて虫歯になる子供が多く見受けられました。町福祉課では「食事、おやつ、歯磨きはもちろん、シーラント(奥歯の溝を埋める方法)なども取り入れ、虫歯を予防してほしい」と話しています。

## の 歯 けんこう

—3歳児健診より—

( ) 内は保護者

(永慶保育園)

鈴木なな子先生

もっていたら……と、今、保育園児の前で「大切な歯」の話をすると、少し後ろめたさを感じながらもつい真剣になり、力が入ってしまう自分に苦笑してしまいます。

永慶保育園では、七年度より歯科衛生士さんによる毎月一回の歯みがきチェックを行い、紙芝居やゲーム、そして町保健婦さんにも一緒にパープサートを企画し、演じていただきました。また、参観日には、親子で虫歯予防のビデオを見ることにより、子供たちも日に日に自分の歯を大切にしようということへ、関心が高まっています。

この幼い子供たちの意識を、小、中学校、さらに成人へと持続させ、高めていくことが、必要だと感じています。

## 虫歯 なんて ないもん。



阿部文和くん  
小倉(文造さん)



畠山卓也くん  
袖山(和雄さん)



渡辺恵実ちゃん  
田代(等さん)



遠藤温美ちゃん  
小倉(薫さん)



佐藤明良くん  
下通(博之さん)



## 2,500人でにぎわう



▲大人、子供関係なく熱戦を繰り広げた雪玉合戦



▲子供たちでにぎわった早食い大会

## 楽しいイベントがいっぱい

第十二回大平雪まつりが二月三、四日の両日、大平スキー場で行われ、二千五百人が雪遊びのかたわらイベントを楽しみました。

初日は、吹雪模様の天気にもかかわらず、スノーボードのデモンストレーションを皮きりに、恒例のたいまつ滑走、どんと焼きや花火大会、うどんと牛モツ汁による早食い大会が行われました。

ほぼ快晴となった二日目は、スキー大

会、雪上相撲、雪上ペタンク、雪玉合戦、雪上底抜け脱線ゲームが行われ、参加者は歓声を上げながらイベントを楽しんでいました。

今回の雪まつりでは、スキー場リフトが三百円で乗り放題となったほか、イベント参加者には湯楽里の入浴回数券やみかん一箱が当たる福引券が配られ、子供たちや家族連れなどでにぎわっていました。



▲農近ゼミのもちつきには多くの人が参加



▲「うまくいかないヨー」3つの鉄球に鉄球を当てる雪上ペタンク



▲「ハッケヨイ、ノコッタ」ビニール袋で足をとられながらもがんばった雪上相撲



▲見事なジャンプを披露したスノーボードデモンストレーション

## スキー大会入賞者(敬称略)

- 《小学校低学年男子》①佐藤大(八塩)
- ②佐野新(同) ③長沼敬晴(高瀬) 《同女子》①小松朋未(高瀬) ②小松るみ子(同) ③遠藤真祈(同)
- 《小学校高学年男子》①長沼淳(高瀬) ②工藤邦彦(同) ③高橋有(同)
- 《同女子》①小松ゆかり(八塩)
- ②高橋奏子(高瀬) ③守屋桂子(同)
- 《中学生男子》①小松裕介(東由利)
- ②佐野真一(同) ③佐藤新(同)
- 《高校生・一般男子》①小笠原秀和(横渡) ②小笠原慶悦(蔵新田) ③佐々木秀記(本莊市)







わが家の  
アイドル☆

袖山・鈴木 将太ちゃん  
(H7・2・16生まれ)  
お父さん・徳之さん  
お母さん・郁子さん

「おもちゃ遊びが大好きで、人見知りもせずすくすく育っています。健康な子になってほしい」とおばあさんのアヤさん。

★ステキな写真盾が当たる★

## 広報クイズ

どんどん応募してね

問 各分館主催で行われた新春町政座談会。大蔵館での参加者は何人？

①30人 ②40人 ③50人

(ヒントは先月号にあり)

▼官製はがきに答え、応募者の住所・氏名・年齢・身近な話題など、なんでも結構ですので、書いてお出してください。▼宛先／東由利町老方 東由利町役場広報係宛▼締切／3月15日(当日消印有効)▼正解者の中から抽選で記念品をプレゼント。

▼先月の正解は③2,541人でした。応募してくれた14人が全員正解、抽選で次の7人に写真盾をプレゼント。高橋学さん(地下ノ沢)、大日向良一さん(宮ノ前)、大庭秀樹さん(大琴)、工藤まり子さん(新処)、小野直人さん(宿)、畑山フミさん(大琴)、伊東英夫さん(本莊市)。応募ありがとうございました。たくさんのお応募まってま〜す。



小松茂明さん  
(田代・19歳)

秋田ルビコン(株)勤務  
血液型・O型

高校卒業後、地元の秋田ルビコン株式会社に勤務した茂明さん。ハードな三交替勤務にもかかわらず、元気に頑張っている。彼の趣味は、自動車とバイク。

「愛車、白のスカイラインでドライブしているときに最高の気分。スピード感がたまらない」と話す茂明さん。バイクの中型免許も持っており、夏

は友達とツーリングに出掛けます。「バイクに乗っているといろいろな人が手を上げてあいさつしてくれる。みんなが仲間という感じ」とバイクの魅力を話しています。

行動派の彼が今夢中になっているのが一か月前から始めたスノーボード。初心者練習場に最適と言われる大平スキー場で、仲間とともに練習しています。「最初のころは首や頭を打ったり大変だったが、今は何とか滑れるようになった。怖い時もあるがもっと上手になるよう頑張りたい」とスノーボードが楽しくてたまらない茂明さんでした。

次は、大沼組に勤務している同級生、大庭司くんにもリレーします。

## 東由利の文芸

せせらぎ句会(二月句会)

川の瀬のきらめく朝や寒明けける  
寒明けける護岸工事の音さだか  
角萌す子牛の額寒明けける  
寒明や鳥海山を凜と据え  
飛ぶ鳥の影を濃くして寒明けける  
まな板の弾むリズムや寒の明け  
せせらぎの幽かに動き寒明けける  
鶏の声で目覚めて寒明けける

小松 忠正(下通)  
小野石路子(上里)  
高橋民治郎(袖山)  
嶽石レイ(五海保)  
高橋ヒデ子(横渡)  
嵯峨義之(中通)  
大庭喜右エ門(舟木)  
小松 徳蔵(湯出野)

寒明けの庭の陽だまり犬と猫  
乳呑児の握りこぶしや福寿草  
軋みつつかたむく櫓や子の力み  
節分の豆は背の子に打たせたり  
米をとぐなじむことなく冴え返る  
宮の森羽音増して二月来る  
鈴の音して馬櫓の峠こえ  
陽炎や土場に香りし秋田杉  
雪払う音して父の帰えりけり  
雪しまく露仏の御素足笑み哀れ  
納棺の母に紅ひく寒ともし  
春灯や活字太らす虫めがね

阿部 俊子(横渡)  
小松順之助(中通)  
遠藤トミ子(小倉)  
工藤 武雄(山崎)  
小笠原亮子(蔵新田)  
菊地 常作(湯出野)  
小松 女沙(下小路)  
佐藤 正義(湯出野)  
小笠原トミ(蔵新田)  
阿部 ナミ(蔵)  
小野 貞子(蔵新田)  
阿部 澄子(蔵)



いしわたりまゆこちゃん(蔵)



永慶保育園



えんどうあさこちゃん(蔵)



ともだち

## ぼくの絵 わたしの絵



あべだいきくん(野田)



おのゆうへいくん(宿)



おのよしゆきくん(上里)



# やま 塩 かわ 瀬 人と自然の自然に学ぶ

## 活動の成果 環境保護への意識高まる

▶環境教育の中心となった川の  
水質調査



町環境教育推進会議が二月十二日、二回目の会議を開き、本年度の取り組み状況を報告、確認しました。

本町は今年度、文部省の環境教育モデル市町村(全国で八市町村)に指定され、これを受けて町内小、中学校を実践協力校に位置づけ、関係団体や地域、家庭とが一体となった環境学習

と実践を展開してきました。

特に、十一月二十七日には、環境教育シンポジウムを開催。小、中学生が、森林学習会、高瀬川の水質や酸性雨の調査結果を報告したのをはじめ、八嶋シゲさん(上通)の提言や本荘市社会教育指導員の木谷豊四先生の講演が行われました。

二回目の会議には、学校や関係団体から約二十人の委員が出席。①実践校の取り組みが計画的に展開され効果的だった②川の水質調査などを通して、町民一人ひとりの環境保護に対する意識の高まりがみられた一などが成果として発表されました。

また、今後の課題としては、①活動を継続的に実施し、一層のモラルの高揚を図る②学習機会の場を設けて、実践と討論を中心とした活動を展開するなどを確認しました。

## ハイスクール○日記

### 卒業にあたって



下郷分校3年  
小松 秀和くん

下郷分校に入学して、今思えば、三年という月日があっという間に過ぎ去った。中学の頃と変わらないう仲間との高校生活ではあったが、その仲間とも、通い慣れた校舎にも、もうすぐ別れる時が来る。

この三年間の学校生活を振り返ると様々なことが思い出される。部活動でのこと、学校行事のこと、友達のこと……

中でも強く印象に残っているのは部活動のことだ。私は軟式野球部に所属していた。公式戦ではとうとう最後まで一勝もできなかった。けれども、その一勝に向けて仲間と練習を頑張ったこと、三年生最後の試合で好試合ができたことはとてもいい思い出だ。なんとなく部活をしている時期もあったが、それでも、三年間続けてきていろいろな思いや経験をすることができたのは、私にとって一つの大きな収穫だと思う。

この春からは、社会人としての新しい生活が始まる。不安な面もあるが、これまで学び、感じ取ってきたことを心の糧とし、社会人として大切なことを一つ一つ確実に吸収していきたいと思っている。



# 3月→データ東由利

〈1/1~1/31〉

人口 ( ) は前月比

|      |              |
|------|--------------|
| ■男   | 2,667人 (△5)  |
| ■女   | 2,807人 (△5)  |
| ■計   | 5,474人 (△10) |
| ■世帯数 | 1,410戸 (—)   |

( ) は1月からの累計

|     |       |     |         |
|-----|-------|-----|---------|
| ・出生 | 3人(3) | ・死亡 | 13人(13) |
| ・転入 | 5人(5) | ・転出 | 5人(5)   |

|       |       |
|-------|-------|
| ■火災出動 | 0件(0) |
| ■救急出動 | 8件(8) |
| ■交通事故 | 0件(0) |
| ・死亡   | 0人(0) |
| ・傷者   | 0人(0) |
| ■飲酒運転 | 0人(0) |
| ■酒気帯び | 2人(2) |

## カレンダー 3月の行事

- 3 認定農業者協議会学習会  
(13:00 老方館)
- 6 3月定例議会
- 10 野菜生産者振興大会  
(14:00 有鄰館)
- 11 東由利中卒業式
- 16 八塩小卒業式
- 17 全町バスケットボール大会  
(8:30 健康増進センター、東中体育館)
- 18 高瀬小、大琴小卒業式
- 25 永慶保育園卒園式
- 28 みどり保育園卒園式

## 東由利

## 郷土の野草

No.133



### アゼムシロ

(キキョウ科)

文・写真 小松忠正

田の畦、湿地などに自生する小さな多年草で、地面にそって茎を伸ばし、節々から根を出して成長します。葉は楕円形で長さ一〜二センチで互生します。六〜十月頃葉腋から白色にやや紅紫色を帯びた一個の可憐な五弁の少し変った形の花をつけます。和名は田の畦などにムシロを敷いたように一面に生えることからいわれ、溝などにも生えるのでミゾカクシの名もあります。中国あたりでは解毒剤としても利用するそうですが、一般に家庭薬としては使わないようです。

## 戸籍の窓口

(1/21~2/20届出)

●お誕生おめでとう

1/31 長山 芽生ちゃん(賢) 大吹川  
加代子

●ご結婚おめでとう

1/29 佐々木 徳昭さん 大琴  
王 紅さん 中国

●ごめい福をお祈りいたします

1/23 佐藤キミヨさん(80・直也・妻) 八日町  
1/26 柏原 健一さん(57・慶子・夫) 新町  
1/26 小松 安雄さん(67・エイ・夫) 松柴  
1/27 大坂良治郎さん(82・トミエ・夫) 下小路  
1/27 菊地 信雄さん(72・愛子・夫) 館西  
1/27 遠藤猪一郎さん(83・スマ・夫) 小倉  
1/27 小野民太郎さん(87・昭男・父) 須郷田  
1/29 阿部 勇さん(74・道雄・父) 石高  
1/29 遠藤 イトさん(92・春男・母) 小倉  
1/30 高橋 春松さん(93・鉄蔵・伯父) 寺田  
1/30 畑山文一郎さん(84・一郎・父) 館合新田  
1/30 佐々木信雄さん(88・輝男・父) 大琴  
1/30 佐々木千代子さん(89・英徳・母) 大琴

## カラースナッツ

冬花火



冬花火は、大平雪まつりのメインイベントとしてすっかり定着。今年もたくさんの方が花火を見物しました。

(撮影、広報担当)

## まごころ

町社会福祉協議会に、木島賢一さん(島)、大坂正治さん(下小路)、菊地章さん(館西)、遠藤譲悦さん(小倉)、柏原慶子さん(新町)からご芳志が届けられました。

広報送付の謝礼として、阿部トミエさん(秋田市在住、蔵出身)、加藤昭子(秋田市在住、小倉出身)、斎藤恒男さん(本荘市在住、蔵新田出身)から金一封が届けられました。

板垣重信さん(弘前市在住、島出身)から東光苑に金一封が届けられました。

## ほっといっき

2月13日、高齢者と子供の集いを取材し、久しぶりに童心に返って楽しませてもらいました。▽「3枚のお札」というお話し紙芝居は懐かしさでいっぱい。けん玉、コマ回しなどを子供たちと一緒に遊んでみるうちに、つい真剣になったり…。▽ファミコンが遊び道具の主流になっている現在、昔ながらの遊びを行事に取り入れることは、子供たちにも貴重なこととであり、お年寄りにとっても懐かしさ、楽しさを味わえるのではないかと感じました。▽お年寄りが子供に遊び方を教え、上手に出来たときはみんな大喜び。笑顔いっぱい集いに大満足のひとときでした。